

ミニトマト

News Letter

2020年

7月

中国四国農政局
愛媛県拠点

平成30年7月豪雨から2年 新たにミニトマト、いちご栽培を開始

西予市野村町でシンビジウム（洋らん）を中心に花の鉢物を30年近く栽培していた熊谷琢磨さんは、平成30年7月豪雨により、川沿いにあった栽培施設が倒壊、水没し機械設備はもとより栽培中のシンビジウムも流されるなど、壊滅的な被害を受けました。

被災直後からボランティアとして駆けつけてくれた取引先などからの支援の声にも後押しされ、多角化経営を目指し新たにミニトマト、いちごの栽培に取り組むことを決意しました。

再建したハウスで平成31年2月にミニトマト、4カ月後の令和元年6月には新設し



ミニトマト栽培について語る熊谷さん



収穫を待つミニトマト

たハウスでいちご栽培を開始。規模は縮小しましたが、花きの生産も再開しました。

ミニトマトの栽培初年度は、花きの栽培管理とは勝手が違い、想定していた収量・品質にはなりませんでしたが、2作目となる本年は、生産管理の徹底や新たに微生物資材の活用を行うことで、糖度、収穫量ともに前年を上回る好成績となっています。

「食べた人が「美味しい」と笑顔になれるミニトマト、いちごを生産できるよう、これからも工夫し続けたい。」と前を向いています。

また「この地域を元気にするには、農業が元気でなければならない。」と自家農園のいちごと県下有数の酪農地帯である野村町の牛乳を使用した加工品を試作し、新設したカフェでの販売や観光農園を開設することも計画しており、野村町を多くの人が訪れることで地域全体が元気になることを目指しています。

「再スタートしたばかりだが、楽しい農業、儲かる農業を実現することで、農業の魅力を若者に伝えたい。」と熱く語られました。

フローラルクマガイHPもご覧下さい。

<https://www.floral-kumagai.com/>



再建したミニトマト栽培施設

「花いっぱいプロジェクト」～農業高校等と連携～

農林水産省では、「花いっぱいプロジェクト」として、新型コロナウイルスの影響で需要が減少している花きの消費拡大を図るため、家庭や職場で花飾りや花の購入を促進しています。愛媛県拠点では、令和2年6月17日から7月末までほぼ週替わりで、県内6高校に協力いただき、高校生が愛媛県産花きで制作したフラワーアレンジメントを松山地方合同庁舎玄関ロビーに展示する取組を行いました。

玄関ロビーは、高校生から生産者へのメッセージと共に、花の香りに溢れ、訪れた方々に癒やしをもたらしました。

「花いっぱいプロジェクト」に協力いただいた高校生たち



丹原高校
テーマ「希望」「心をひとつに」



今治南高校
テーマ「支え愛」「癒やし」



上浮穴高校
テーマ「幸せと明るい未来を運ぶ」



西条農業高校
テーマ「Shine(シャイン)」「花火」



伊予農業高校
テーマ「憩い」「川のせせらぎ」



大洲農業高校
テーマ「幸せの三日月」「太陽」

インフォメーション

「ディスカバー農山漁村の宝」第7回選定地区募集

「ディスカバー農山漁村の宝」とは、「強い農林水産業」、「美しく活力のある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国に発信するものです。

第7回となる今年度は、7月1日(水)～9月4日(金)まで特設サイトで応募の受付を行っています。

なお、詳細は以下のURLからご確認下さい。

「ディスカバー農山漁村の宝」ホームページ

<https://www.discovermuranotakara.com>

©「News Letter」は、原則奇数月に発行しています。

編集：中国四国農政局 愛媛県拠点

〒790-8519 松山市宮田町188番地 松山地方合同庁舎

TEL(089)932-1177(代) FAX(089)932-1872 <農政局HP>

◆ニュースレターに関するアンケートにご協力ください。

<https://www.maff.go.jp/chushi/>

<https://www.contactus.maff.go.jp/j/chushi/form/nl180401.html>